

# いっしょに働きましょう。介護職員(常勤・非常勤)を募集しています。

30年秋に特養ベッド数を増やす計画を検討しています。

よって、30年4月から新しくいっしょに働いてくださる介護職員(常勤・非常勤)を募集しています。下図の「7つの基準」を目指し、ご利用者が自然な最期を迎えるまで自由と自立を援助します。

随時施設の見学をお受けしていますので、ご興味のある方、  
042-367-6511 採用担当 水越まで是非ご連絡ください。

どうせ働くならごいっしょに「心の動く援助」をやりませんか。

## 安立園特養ホーム 7つの基準

28.7.1

### 職員は、当たり前なこと(技術)をきちんと実行する

① 進歩と自己成長	② コミュニケーションとチームワーク	③ 根拠と同意	④ 親と子の気持ち
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自発的な自己成長</li> <li>・「新しい知識」「コストの意識」の習得</li> <li>・古い常識で今日の業務を実施しない</li> <li>・基本技術を手抜きしない</li> <li>・課題を個人の責任に終わらせず、一歩でも改善する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の問題でなく、自分自身の課題として考える。こじれる前に、間違えたら謝る。</li> <li>・きちんと自分の考えを伝える力を身につける。</li> <li>・「かげぐち」にしない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全てケアは、「道理ある根拠」「それに対する本人、家族の同意」により成立。その両方を大事にする。</li> <li>・病気、通院、入院など利用者が一番困っている時にこそ、「根拠」と「同意」を重視。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親を入れたいくなる施設</li> <li>・子どもを就職させたいくなる施設。</li> <li>・職員としての固定観念でなく、自分がその立場ならどうしてほしいかを想像する。</li> <li>・今の姿で判断しないで、何十年前からの利用者家族の関係性から理解する。</li> </ul>



⑤ 自律した生活	⑥ 自由と自己選択
<p>高齢・障害でも、自分の意志で出来ることを増やす環境作りと援助をおこなう。</p>	<p>他者からの強制は、危険性が明確な場合にのみ実施。基本は当然、自由です。</p>

### あんしんりゅうめい ⑦ 大目標: 安心立命

大正15年10月 教諭師(浄土真宗僧侶)武田え宏氏が、行き場のない刑余者のための自立施設として、寄付をつのりこの地に3000坪土地購入し、事業がはじまる。

◆全ての人(利用者・家族・職員・関係者)が心安らかに生活し、天から与えられた使命がまっとうできるように。病気、障害、認知症により失ってしまったその人らしい生活を職員のサポートによって取り戻し、その人の意志で作ります。人は他者から強制されない「自由・自己選択」と、自分でおこなう「自立」への支援でこそ生きていく実感を持てます。例えば「清潔の保持」。職員がただ「口腔内の汚れを落とす」のではなく、『その人が自分の意志と、自分の力できれいにする』ためのサポートが大切です。自力でできる力を無視し、介助をしてしまうことは、「口腔清掃」ではあっても「介護」ではありません。

職員にとって、ここで働くことが喜びと誇り、天命と感じられるような、職場・施設・法人作りをめざしていく。

#### ◆【施設サービスの方針】

① どのような生活を送りながら、どのように天命をむかえていくかを確認します。どうせ死ぬなら楽しい人生をおくり、良いQOL(生活の質)を積み重ねることが、良いQOD(Quality of Death=死の質)へとつながります。命の長さだけが唯一の基準ではありません。

② ご本人の希望がかない、いきいきしている時間を大切にします。好きな歌、食べ物、会っておきたい人、行っておきたい場所。人生のやり残しを済ましなが、ターミナル期へとつながっていきます。食べられなくなった時、病院での治療・検査に時間を費やすことを止め、最期の時を迎えることを決めたご家族は、今までと変わらぬ暮らしのなかでお別れの時間を持ちます。看取りの後に、ご家族にかけられる言葉は「残念でしたね」ではなく「立派でしたね。十分にお別れができましたか!」に変わります。

③ 施設利用者の家族は、全ての人を抱く「家族の死への不安」と、不意ながら『自宅で世話ができなかった後ろめたさ』の二つの気持ちを抱えます。元気な姿に戻そうと、施設の職員・ケアを、細かくチェックしはじめたり、親が亡くなるさびしさのため、効果を度外視した対処療法、入院、延命を希望されることもあります。ご家族は親族との別れをどうとらえているのか? 全て理解ができなくても、若い時の家族写真を見せてもらい、思い出のメッセージをうかがい、ご家族の気持ちに近づきます。日々進化する在宅医療を取り入れ、痛み、呼吸苦、排泄困難など利用者の苦痛除去への努力をおこなうことで、寄せられる信頼は強まります。予期せぬ事が起こりえる臨死期に、ご家族から命の扱いを任せられ、信頼を得られるかどうかで、看取り介護が決まります。ご本人・ご家族の希望があれば、胃ろう、点滴などの延命的ケアがつけられるようサポートします。

④ 死後、ご家族といっしょにエンゼルケアをおこないます。天寿を全うできた、QODの高い死後の整容です。献花をそなえ、死後を整容することは、笑顔の遺影とともにきれいな姿で私たちの記憶に残ります。

介護職員募集しています

